

補足説明

平成27年6月22日

国土交通省 関東地方整備局

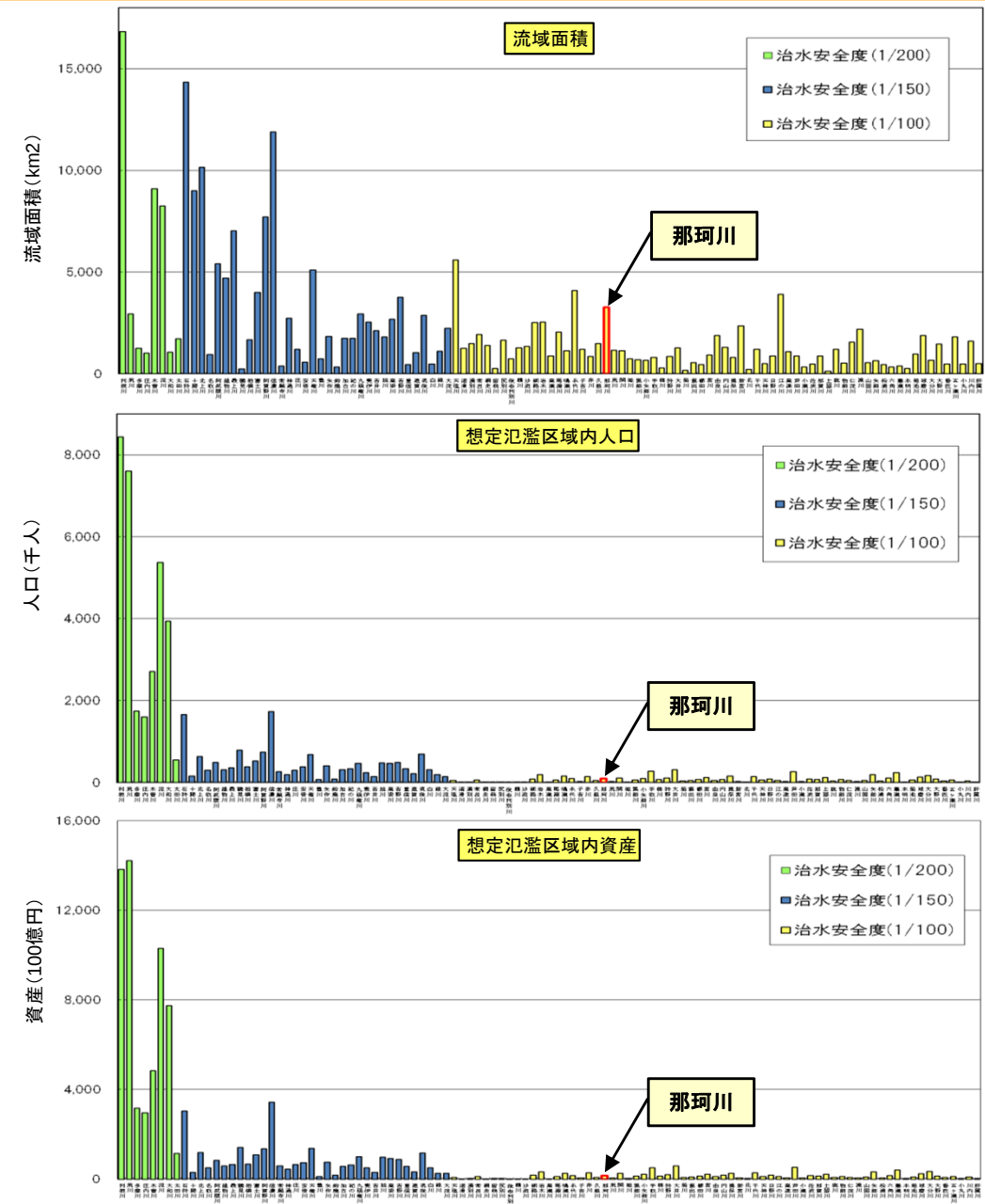
■ 計画の規模の決定に当たっては、河川の重要度を重視するとともに、既往洪水による被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定めています。

計画の規模

計画の規模は計画対象地域の洪水の度合いを表すものであり、それぞれの河川の重要度に応じて上下流、本支川でバランスが保持され、かつ全国的に均衡が保たれることが望ましい。

この河川の重要度は、洪水防御計画の目的に応じて流域の大きさ、その対象となる地域の社会的経済的重要性、想定される被害の量と質、過去の災害の履歴などの要素を考慮して定めるものである。

出典:「国土交通省 河川砂防技術基準 同解説 計画編」(平成17年)P29より抜粋



* 河川現況調査(調査基準年 平成17年度末)による

社会資本整備審議会
河川分科会(第44回)(平成23年9月5日)
資料1-3 基本高水ピーク流量の検討より作成

既定計画の検証

那珂川水系

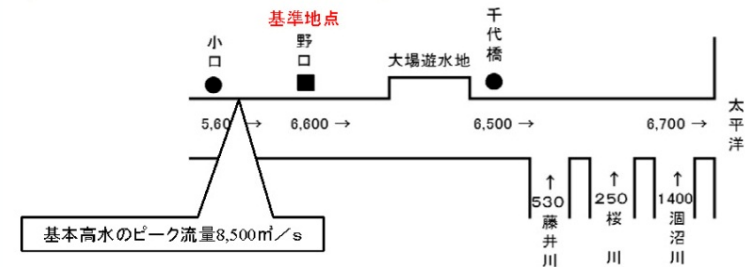
平成5年工事実施基本計画の概要

確率降雨量	基準地点野口の流域平均2日雨量は300mm/2日。
流量の算定	過去の様々な降雨流出パターンを想定し、ピーク流量を算定。

[基本高水のピーク流量と洪水調節施設配分]

河川名	基準地点	計画規模	基本高水ピーク流量	計画高水流量	調節流量
那珂川	野口	1/100	8,500m ³ /s	6,600m ³ /s	1,900m ³ /s

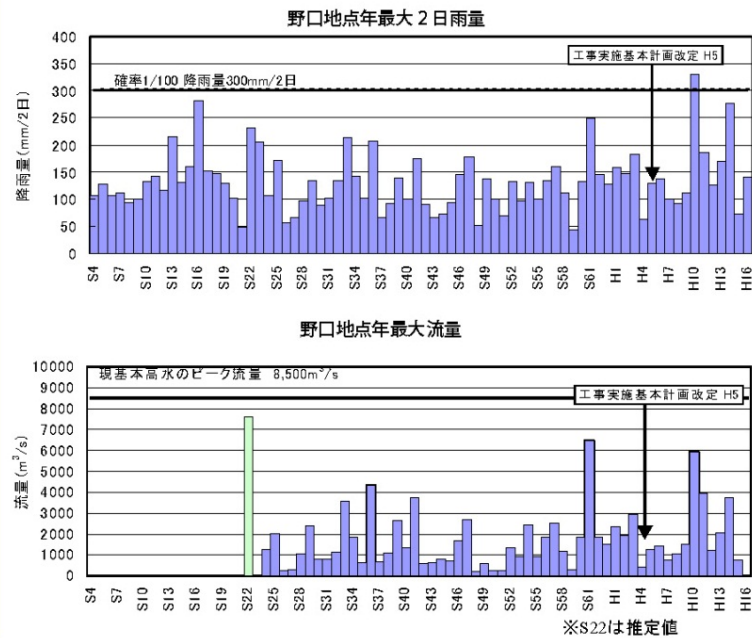
工事実施基本計画流量配分図



既定計画策定後の水理・水文データを踏まえ、既定計画の基本高水のピーク流量について検証

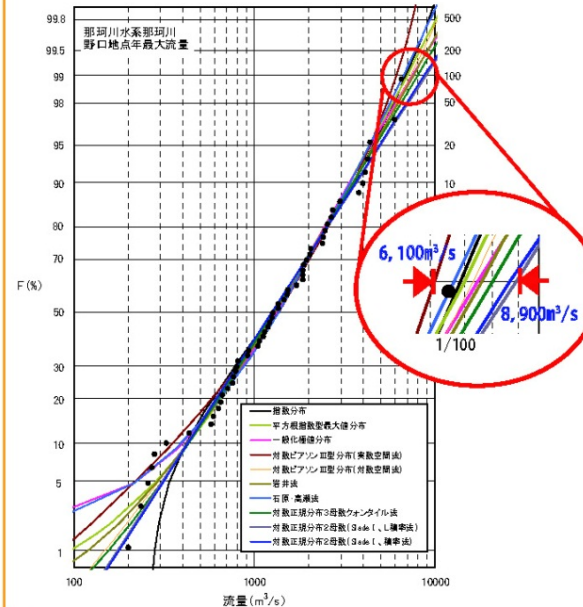
年最大流量等の経年変化

既定計画策定後に計画を変更するような大きな洪水は発生していない。



流量確率による検証

蓄積された流量データ（S24～H15の55ヶ年間）を確率統計処理し検証。野口地点における1/100確率規模の流量は6,100m³/s～8,900m³/sと推定。



既往洪水による検証

洪水時に流域が湿潤状態にあった昭和40年9月洪水と同様の流域の状態を想定し、観測史上最大の昭和61年8月実績洪水（基準地点野口6,490m³/s：戻し流量）の降雨パターンにより流出解析を実施した結果、野口地点で8,500 m³/sと推定。

検証の結果、基準地点野口における既定計画の基本高水ピーク流量は妥当